

平成20年度

施設名(愛称名)	敷根公園
----------	------

番号	67
----	----

平成20年度

施設評価調書

施設の名称.....敷 根 公 園

所管担当課.....建 設 課

平成20年7月

平成20年度	施設名(愛称名)	敷根公園	番号	67
--------	----------	------	----	----

施設の概要

1 施設名 (愛称名)	敷根公園		2 担当課 担当係	建設課 都市住宅係		
3 所在地	下田市敷根 757 番地		4 設置年月	昭和61年7月1日		
5 総合計画の 位置付け	ヒト・モノ・コトの豊かな交流づくり		身近な生活環境づくり		公園	
	施策体系		都市公園の整備		総合公園の整備	
	主要事業		都市公園整備事業		公園の整備	
6 設置目的	大規模地震対策特別措置法に基づく地震防災強化地域の指定を受け、予想される大規模地震被害から市民の生命、財産を守るための広域避難地を兼ねた都市公園として整備され、市民の憩いの場、レクリエーション活動の拠点として、また健康増進を図る目的で建設された。					
7 設置根拠	下田市都市公園条例					
8 施設の概要	施設の概要		敷地面積 118,616 m ²			
			健康広場	弓道場	庭球場	
			温水シャワー	屋内プール	トレーニングルーム	
	実施事業の概要		各種水泳教室	サーフィン教室	弓道教室	
			ソフトテニス教室	公園の使用許可		
			スノーケリング教室	公園の維持管理		
	料金区分		1 都市公園占用料等	5 附帯設備使用料(タッチバン)		
			2 健康広場使用料	6 弓道場使用料		
		3 庭球場使用料	7 温水シャワー使用料			
		4 プール使用料				
料金体系		主な料金	1 都市公園占用料(下田市道路占用料徴収条例(昭和44年下田市条例第18号)第2条を準用する) 2 健康広場 1日全面使用 一般市内 6,400円 高校生以下市内 3,200円 1日片面使用 一般市内 3,200円 高校生以下市内 1,600円 一般市内 2,000円 3 庭球場 1面2時間 高校生以下 1,000円 1面2時間 一般市内 1,000円 4 プール 照明使用料 1面2時間 一般市内 500円 1人2時間 65才以上・中高生 400円 小学生以下 250円 回数券有り 5 附帯設備(タッチバン) 1日1回 1,000円 6 弓道場 1人4時間 一般市内 250円 高校生以下 150円 7 温水シャワー 1回5分以内 200円 2・3・4・6について市外、専用使用では料金設定が異なります			
料金体系		減免内容	下田市都市公園条例施行規則(使用料の減免及び還付) 第5条 条例第9条の規定による使用料の減免は次の各号に定める場合とし、その額は当該各号に定めるところによる。 (1) 下田市内の保育所、幼稚園、小学校又は中学校の児童又は生徒が教職員引率のもとに保育又は教育上の目的で使用するとき。使用料の全額 (2) 官公署、公益法人又は報道機関が公益事業のため、入場料を徴収しないで使用するとき。使用料の全額 (3) 下田市が主催し、又は委託する事業で使用するとき。使用料の全額 (4) 前各号に定めるもののほか、市長が特別の理由があると認めるとき。市長が定める額			
		利用料金制度	<input checked="" type="checkbox"/> 有	無	指定管理者制度導入時採用	
施設運営方法		直接運営				
		<input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者制度	指定管理者	(財)下田市振興公社		
		一部委託	委託内容			
直接従事職員		指定管理者職員 常勤7名 臨時3名				

平成20年度	施設名(愛称名)	敷根公園	番号	67
--------	----------	------	----	----

9 市内の類似施設	下田市所有						
	民間所有						
10 取得費等の情報 (単位:円)	取得費及び財源内訳		平成19年度末残高			(備考) 減価償却の方法 ・ 定額法 ・ 残存価格1円 ・ 開始翌年から減価償却 ・ 耐用年数30~38年	
	土地取得費	131,287,540	土地残高				
	建物取得費	1,183,977,000	建物減価償却後残高	477,619,728			
	財源内訳	1,183,977,000					
	国・県支出金	264,000,000					
	市債	919,977,000	市債残高	99,409,211			
	一般財源						
	寄附金等						
	物品(*万円以上)		物品減価償却後残高				
	減価償却の算定					減価償却算定 「財務省令」を参考とした総務省指導方式	
	施設名	取得価格(単位:千円)	耐用年数		単年度償却額		
	健康広場	1,175,251	30年	S64~H30	S 63.6		39,175,033円
	弓道場	40,366	30年	H4~H34	H4.03		1,345,533円
	庭球場	42,318	30年	S63~H29	S 62.2		1,410,600円
温水シャワー	22,146	38年	H10~H48	H9	582,789円		
屋内プール	1,030,622	30年	H4~H34	H3.08	34,378,673円		
11 年間経費等推移 (単位:円)	区 分		H17年度決算	H18年度決算	H19年度決算	H20年度予算	
	収入	施設使用料	18,500,130	-	-	-	
	収入合計		18,500,130	-	-	-	
	支出(下田市)	11 需要費			598,500	4,179,000	4,500,000
		12 役務費			71,467	71,467	72,000
		13 委託料	462,000				
		13 委託料(管理)	25,425,068	43,982,000	45,753,400	47,467,000	
		15 工事請負費	1,900,500				
		16 原材料費					
		19 補助金(人件費)	35,297,364				
	19 負担金補助及び交付金						
	支出合計		63,084,932	44,651,967	50,003,867	52,039,000	
	区 分		H17年度決算	H18年度決算	H19年度決算	H20年度予算	
	人件費(市職員)						
減価償却費		76,892,628	76,892,628	76,892,628	76,892,628		
市債利子		13,337,361	10,413,691	7,811,978	5,569,430		
人件費(事務に係るもの)							
下田市負担年間総経費		134,814,791	131,958,286	134,708,473	134,501,058		
備考	人件費は、実額を算出記載(正職員・嘱託職員等の人件費総額)						

平成20年度

施設名(愛称名)

敷根公園

番号

67

(参考資料)

財団法人 下田市振興公社決算書(下田市敷根公園屋内プール)

区 分		H17 年度決算	H18 年度決算	H19 年度決算	H20 年度予算
収入	利用料金収入		21,846,500	21,604,330	21,600,000
	指定管理料		43,982,000	45,753,400	47,467,000
	自主事業収入		14,719,572	14,682,683	15,088,000
	管理運営受託料	25,425,068	-	-	-
	人件費補助	35,297,364			
	収入 計	60,722,432	80,548,072	82,040,413	84,155,000
支出	管理運営費	給料	19,817,100	19,569,600	20,580,000
		諸手当	9,299,576	9,653,551	10,155,000
		賃金	2,321,104	2,289,281	2,335,000
		法定福利費	4,258,925	3,863,583	4,357,000
		退職金掛金	946,720	941,480	965,000
		人件費	35,297,364	-	-
		旅費	13,120	13,120	15,000
		消耗品費	871,831	1,032,213	948,000
		光熱水料費	12,776,331	12,975,836	13,456,187
		印刷製本費	99,911	134,400	29,400
		燃料費	5,700,486	5,939,066	7,142,273
		修繕費	894,945	1,639,764	1,366,185
		通信運搬費	270,018	254,302	206,888
		手数料	319,525	448,125	464,075
		委託料	3,531,628	3,569,485	3,523,522
		原材料費		0	
		賃借料	941,273	888,476	869,669
	保険料		45,761	70,821	
	広告料				
	負担金支出	6,000	6,000	6,000	
	租税公課費		1,866,771	1,828,000	
	小 計	60,722,432	65,456,744	66,243,515	
	自主事業費	諸手当		382,405	354,380
		賃金		4,114,304	4,262,697
		法定福利費		438,552	363,864
		報償費		225,000	434,000
		旅費		40,400	201,260
		消耗品費		1,443,827	934,883
		食料費		108,640	83,999
		印刷製本費		298,150	255,967
		燃料費		44,062	591,065
		光熱水料費			36,000
		修繕費		1,884,466	1,087,501
通信運搬費			116,664	143,252	
賃借料			4,289,748	4,821,788	
保険料			131,233	139,426	
広告料			114,183	124,183	
通行料			8,820	12,490	
物品購入費		811,503	168,784		
負担金支出		142,700	25,105		
租税公課費			249,048		
小 計		14,594,657	14,289,692		
支出 計	60,722,432	80,051,401	80,533,207		

(財) 下田市振興公社決算

平成18年度から指定管理者の指定を受ける。

平成20年度	施設名(愛称名)	敷根公園	番号	67
--------	----------	------	----	----

12 施設利用 状況等の推移	利用状況	利用年度	H17 年度決算	H18 年度決算	H19 年度決算	H20 年度
		利用者数	97,993 人	103,981 人	105,867 人	人
		参考：利用単位	1,376 円	1,269 円	1,272 円	円
		当たり市負担額	算定方法：下田市負担年間総経費 ÷ 利用者数			
	休館日	12/29～1/3 プール&弓道場：月曜日・月曜日が祝日の場合その翌日				
	使用時間	健康広場 午前8時30分から午後5時 庭球場 午前8時30分から午後8時30分 屋内温水プール 火曜から金曜 午後1時から午後8時30分(6月から8月は午前10時より) 土日祝祭日 午前10時から午後6時30分 弓道場 火曜から金曜 午前8時30分から午後8時30分 土日祝祭日 午前8時30分から午後6時30分				
13 利用者 満足度調査	実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 無		アンケート		
				施設の美観は？		
				きれい 57 どちらでもない 43 汚い 24		
	直近の 実施時期	開館中常時 (調査結果は平成19年度 集計分)		利用料金について		
	調査手法	アンケート・利用者会議		適正である 48 割安感がある 10 少し高い 29 高すぎる 36		
	調査数	平成19年度 123件		職員の対応は？		
				よい 59 普通 47 悪い 17		
				利用者会議(年1回) 健康広場利用者会議 庭球場利用者会議 プール利用者会議 ・利用予定確認及び調整 ・団体利用者への一般利用者の要望事項 ・利用団体より管理者への意見、要望 ・大会開催時の駐車場の利用方法について ・ボランティア清掃について ・その他協議事項		

平成20年度	施設名(愛称名)	敷根公園	番号	67
--------	----------	------	----	----

業績評価

1 目標達成度

目標達成度	区分	単位	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度
	利用者数の目標値	人	100,829	100,829	103,981	105,867
	" の実績	人	97,993	103,981	105,867	
	目標達成度	%	97.18	103	102	
選択した指標	成果指標 <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の代替指標					
指標選択の理由	目標達成度を選定する指標として同指標を選択した理由 前年の目標値かそれを上回った場合はその数値(有料施設のみ)					
指標設定の考え方	区分	指標名	指標の考え方			
	成果指標					
	代替指標	有料施設	有料施設のみ利用者数把握可能			

(参考)

活動指標(施設の目的を達成するための具体的な手段におけるそれぞれの達成度合を把握できる指標)

		活動指標	区分	単位	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度
活動指標	目標指標	健康広場利用者	目標値	人	23,178	23,178	23,178	23,178
			実績値	人	20,776	18,713	23,178	
			達成度	%	89.64	80.74	100	
	目標指標の考え方	敷根公園の利用向上を検討するため、過去4年間(平成19年度時点)の健康広場利用者最大値を指標とする。						
活動指標	目標指標	庭球場利用者	目標値	人	16,613	16,613	16,613	16,613
			実績値	人	13,963	16,536	16,613	
			達成度	%	84.05	99.54	100	
	目標指標の考え方	敷根公園の利用向上を検討するため、過去4年間(平成19年度時点)の庭球場利用者最大値を指標とする。						
活動指標	目標指標	プール利用者	目標値	人	65,335	65,335	65,335	65,335
			実績値	人	59,507	65,335	62,073	
			達成度	%	91.08	100	95.01	
	目標指標の考え方	敷根公園の利用向上を検討するため、過去4年間(平成19年度時点)のプール利用者最大値を指標とする。						
活動指標	目標指標	弓道場利用者	目標値	人	2,832	2,832	2,832	2,832
			実績値	人	2,359	2,129	2,785	
			達成度	%	83.30	75.18	98.34	
	目標指標の考え方	敷根公園の利用向上を検討するため、過去4年間(平成19年度時点)の弓道場利用者最大値を指標とする。						

平成20年度

施設名(愛称名) 敷根公園

番号 67

2 効率性

		区分	説明	単位	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	
効率性	施設の総利用者数等			人	97,993人	103,981人	105,867人		
	年間経費(除く収入)	11欄「支出合計」の額を転記記入		円	44,584,802	44,651,967	50,003,867		
	利用単位当たり経費	÷		円/人	455円/人	429円/人	427円/人		
総利用者数等の考え方 施設の総利用総数等について用いた指標について記載してください。		公園内散歩等の利用者は集計できないため、有料施設及びトレーニングルーム利用者数を集計。		備考 コスト評価項目に関して留意事項、補足項目等があれば記載してください。		一般の公園利用者も多数いるため、この算出方法での経費は、純粋な利用者単位あたりの経費ではない。			
その他の指標				区分	単位	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度
目標指数	目標指数	消耗品費	目標値	円	1,230,367	1,230,367	1,230,367	1,230,367	
			実績値	円	871,831	2,476,040	1,882,883		
			達成度	%	141	49	65		
目標指数の考え方	目標値は平成15年度の80%を設定年々の経費削減を実現								
目標指数	目標指数	光熱水量費	目標値	円	13,157,480	13,157,480	13,157,480	13,157,480	
			実績値	円	12,776,331	12,975,836	13,492,187		
			達成度	%	103	101	98		
目標指数の考え方	目標値は平成15年度の90%を設定年々の経費削減を実現								
目標指数	目標指数	委託費	目標値	円	3,404,754	3,404,754	3,404,754	3,404,754	
			実績値	円	3,531,628	3,569,485	3,523,522		
			達成度	%	96	95	97		
目標指数の考え方	目標値は平成15年度の90%を設定年々の経費削減を実現								

		区分	説明	単位	H17年度	H18年度	H19年度
受益者負担の適正性	年間経費		敷根公園に係る年間経費	円	63,084,932	65,456,744	66,243,515
	受益者負担額		施設の本来の目的による使用料等の年間総額	円	18,500,130	21,846,500	21,604,330
	受益者負担比率	÷		%	29.3	33.3	32.6
	補正受益者負担額		減免者より正規の料金を徴収したと仮定した場合の受益者負担額	円			
	補正受益者負担比率	÷		%			

施設の現状分析 (有料施設分)

判断視点項目		施設の状況	
施設方向性の判断視点	施設の設置目的が時代のニーズに適合しているか	設置目的に沿った利用がされているか	設置目的である、健康増進、スポーツ普及の場として利用されている。
		住民の福祉の向上に対し、どのように寄与しているか	健康広場 多目的グラウンドであり、野球、サッカー、陸上、グランドゴルフ、ゲートボール等の練習利用、大会利用 庭球場 地元サークル、硬式テニス協会、ソフトテニス協会等の利用 弓道場 下田市弓道連盟、高校生等の利用 プール 個人利用が半数で、民間水泳教室、指定管理者主催の水泳教室・水中エアロビクス教室、小中学校の授業、高校生の部活動等の利用が半数 トレーニングルーム 無料で開放 子供から大人まで幅広く利用され、健康増進、スポーツ普及に寄与している。
		将来に亘り必要な施設として住民の期待を高めているか	地域住民の健康増進、スポーツ普及に不可欠の施設である。 合宿の誘致等による、観光産業などとの相乗効果も期待される。
	施設が十分に利用されているか	施設の修繕計画はどうなっているのか	今後5年間で予想される修繕がランク付けされている。
		施設の運営方法と利用者の情報交換はどのようにされてきたのか	施設内に目安箱が設置しており、意見集約し利用者との調整をはかっている。 健康広場、屋内温水プール、庭球場については、利用者会議を開催している。 各種協会と随時意見交換をしている。 広報、ホームページにより情報提供している。
	施設の管理運営主体が施設の利用目的から判断して適切であるか	同様の施設の設置がされているなど競合していないか	近隣町を含め競合する施設はない。 (プール単体で考えるなら同様施設あり)
		民間においても十分可能な施設なのか	民間が参入して、健康増進、スポーツ普及と利潤追求の両立は困難と思われる。施設が老朽化しているため、民間での運営は困難と思われる。

平成20年度	施設名(愛称名)	敷根公園	番号	67
--------	----------	------	----	----

施設の現状分析 (有料施設分)

判断視点項目		施設の状況	
	使用料、利用者数、支出額、市負担額が適正であるか	<p>使用料の算定に当たり実費経費と住民福祉の向上の比較はどうか</p> <p>同種施設との比較、近隣施設との比較はどうか</p> <p>計画上の利用者数と実際の利用者数の違いがどうなっているのか</p> <p>施設の耐用年数は何年有るのか</p> <p>施設の今後の維持経費の算定はどうか</p>	<p>施設の目的から、住民の健康増進、スポーツ普及の向上に比重がおかれている。</p> <p>同規模の施設と比較して妥当と思われる。</p> <p>指標値と比べると若干少ない部分もあるが、おおむね指標値に沿っている。</p> <p>設備により、耐用年数を経過しているものもある。</p> <p>突発的な漏水または、電気料、重油の単価により、大きく左右される。</p>
	施設の管理運営に係る経費が財政規模からして適正か	施設の管理運営の経費支出が下田市の行政経営からして妥当なのか	現在の施設の規模からすると経費は妥当な額で、住民の健康増進、スポーツ普及に対する公費負担はやむを得ないと考えている。
		現行の管理運営を今後も継続していくことが適切か	住民の健康増進、スポーツ普及を目的に管理運営を継続していくことが必要であり、効率的な運営のために平成17年度に営業時間の見直しを実施。さらに適切な管理を行っていきたい。
	地域的な施設配置のバランスは適正か	旧町村単位における施設配置の見直しはされているのか	他に競合施設なし。
	行政規模からの判断視点	施設の統廃合が可能な施設はないのか	施設統合が出来る施設の組み合わせは有るのか
老朽化と施設維持の比較から改築廃止をどう考えていくのか			住民の健康増進、スポーツ普及のため、今後も改築等により維持していきたい。
地域、民間に譲渡できないのか			都市公園の中にある有料施設であり、譲渡できる性質の施設ではない。 国庫補助金により整備されており、補助金等適正化法の制限がある。
施設の目的の範囲を拡大することにより統廃合可能にならないか			統廃合できる施設でない。 施設の目的が違うため統廃合できない。 (吉佐美グランド)
その他		地域防災の拠点として、管理棟内に防災無線設備が設置されている。 健康広場等は広域避難所としても利用されている。	

平成20年度	施設名(愛称名)	敷根公園	番号	67
--------	----------	------	----	----

施設の現状分析 (無料施設分)

判断視点		項目	施設の状況
施設方向性の判断視点	施設の設置目的が時代のニーズに適合しているか	設置目的に沿った利用がされているか	子供の遊び場から中高年の園路散策、ウォーキングまで幅広い層に利用されている。
		住民の福祉の向上に対し、どのように寄与しているか	市民に憩いの場、やすらぎの場を提供し福祉の向上に寄与している。
		将来に亘り必要な施設として住民の期待を高めていけるか	市民の憩いの場、やすらぎの場として必要な施設である。
	施設が十分に利用されているか	施設の修繕計画は怎么样了なっているのか	簡易な修繕が多く、職員により対応している。
		施設の運営方法と利用者の情報交換はどのようにされてきたのか	清掃作業等の際、利用者と接する機会が多いため、作業中の話しかけによる情報交換が多い。
	施設の管理運営主体が施設の利用目的から判断して適切であるか	同様の施設の設置がされているなど競合していないか	地域毎に設置されており、競合することはない。
		民間においても十分可能な施設なのか	有料施設を含めた一体として指定管理者による管理を行っている。
	使用料、利用者数、支出額、市負担額が適正であるか	使用料の算定に当たり実費経費と住民福祉の向上の比較は怎么样了ななのか	使用料は徴収していない。
		同種施設との比較、近隣施設との比較は怎么样了なのか	整備状況は良好。
		計画上の利用者数と実際の利用者数の違いが怎么样了なっているのか	誰でも、いつでも、自由に利用できる施設であるため、無料施設について利用者数の統計は行っていない。
		施設の耐用年数は何年有るのか	設備の中には耐用年数を経過しているものもあるが、施設としては耐用年数の定めはない。
		施設の今後の維持経費の算定は怎么样了ななのか	大きな修繕がなければ人件費が大部分である。

平成20年度

施設名(愛称名) 敷根公園

番号 67

施設の現状分析 (無料施設分)

判 断 視 点 項 目		施設の状況
行政規模からの判断視点	施設の管理運営に係る経費が財政規模からして適正か	施設の管理運営の経費支出が下田市の行政経営からして妥当なのか 指定管理者による管理。
	現行の管理運営を今後も継続していくことが適切か	市民への憩いの場、やすらぎの場の提供が目的であり、妥当な経費と考えられる。
	地域的な施設配置のバランスは適正か	山間部や海岸部は自然が公園と考えており、都市部に集中しているが、本郷及び中村は土地区画整理により設置されたものである。
	施設の統廃合が可能な施設はないのか	統廃合を考えるべき施設ではない。
その他	老朽化と施設維持の比較から改築廃止をどう考えていくのか	老朽化による設備の改築及び撤去はやむを得ないと思われるが、公園全体として廃止を考える施設ではない。
	地域、民間に譲渡できないのか	都市公園として整備されたものであり、譲渡できる性質の施設ではない。
	施設の目的の範囲を拡大することにより統廃合可能にならないか	統廃合を考えるべき施設ではない。

平成20年度	施設名(愛称名)	敷根公園	番号	67
--------	----------	------	----	----

見直しの方策

評価種別		改善・見直しの方策案
市民と行政の役割分担評価	行政関与の妥当性	都市公園としての位置付けであり、行政関与は必要である。
	受益者負担の妥当性	平成18年7月より有料施設の料金改正を実施済み。
	実施主体の妥当性	平成18年度より、指定管理者制度実施。 平成20年から平成25年までの5カ年の管理協定締結。
	廃止・休止・縮小・外部委託化・民営化などの方向性	市民への憩いの場、やすらぎの場の提供が目的であり廃止等は想定していない。
業績評価	利用者数等の目標数値及び利用者向上策など	有料施設については、指定管理者による自主事業等により利用者増加を図っている。 無料の公園施設については、利用者数ではなく満足度を高めるよう施設整備に重点を置き努力する。
	執行方法の見直しなど効率化のための目標及び方策	光熱水費・消耗品費の節減。
	受益者負担の現状及び適正化のための方策など	平成18年7月より有料施設の料金改正を実施済み。 今後も近郊の類似施設との均衡を図りつつ、検討が必要。
アンケート調査等	市民アンケート調査等の結果	営業中窓口にあるアンケート用紙に記入する方法で実施。 苦情・指摘についてはその都度検討。
サービス面等	サービスの迅速性や利便性など	指定管理者と担当課の連絡を密にし、できる限りの対応を実施。
	利用者満足度の観点からのサービス提供の質の改善方法	人員不足により公園整備が行き届かない点があるため、限られた人員の中で調整する必要がある。

平成19年度事業内容及び見直し事項

事業内容	
見直し事項	<p>管理委託制度の条例を改正する。平成17年9月議会 指定管理者制度導入する。 指定管理者：(財)下田市振興公社 第1期管理期間 平成18年4月1日から平成20年3月31日 第2期管理期間 平成20年4月1日から平成25年3月31日 有料施設の料金改定 平成18年3月議会(平成18年7月1日施行) 以上該当公園：敷根公園</p>

平成20年度	施設名(愛称名)	敷根公園	番号	67
--------	----------	------	----	----

施設懸案事項

No.	懸案事項	改善経費	備考
1	樹木の伐採・間引き		職員にて対応
2	公園施設の修繕		
	エアハンドリングユニット	4,500千円 (概算)	平成20年度実施予定
	冷温水発生器オーバーホール		
	給湯ポンプオーバーホール		
	給排気ファンオーバーホール		
	温調自動バルブ交換		
	ガラス落下防止		
	浄化槽オーバーホール		
	空調衛生設備(ボイラー交換等)	73,273千円 (概算)	実施時期未定
	制御機器(電磁バルブ交換等)		
	特殊機器(タッチ版修繕等)		
	電気設備(受電設備整備)		
	建物(外装吹替工事等)		
	健康広場(グラウンド・ゴール補修等)		
	公園(外灯交換等)		
	庭球場(コート張替え等)		

今後の方向性

今後の方向性	<p>充実</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 効率化等による見直し</p> <p>現状のまま継続等</p> <p>縮小等による見直し</p> <p>統廃合を進める</p>	<p>(具体的な内容)</p> <p>学校利用 : 市内保育園、小中学校の水泳授業、高校水泳部の部活動として年間 3,000 人以上の利用がある。教育的配慮からプール存在は大きく、大人数の団体を受け入れられる他施設は近隣にない。</p> <p>高齢者の利用者 : 年間利用者 3,800 人弱。介護予防として水中運動は最適。運動効果が高く、今後、需要が増える見通し。</p> <p>合宿の利用 : 年間 6,000 人弱の合宿利用者があり 50m 公認プールでの合宿環境が誘客につながっている。大半が県外からの利用者であるため観光として地域への相乗効果も大きいと思われる。蓮台寺パークの廃止による今後の需要もさらに高まる可能性がある。</p> <p>教室の利用者 : 指定管理者自主事業をはじめ、民間スイミングスクールの水泳教室に参加しプールを利用する利用者は年間 41,000 人以上。プール総利用者の 6 割以上を占め、レジャーとしてだけでなく市民の健康増進、子供たちの体育促進に役立っている。</p> <p>上記特記事項に加え、プールをはじめとする有料施設の利用者のみで、年間 10 万人前後あり、市民の憩いの場、レクリエーション活動、健康増進の拠点として必要不可欠であり、継続発展させていくことが望まれる。</p> <p>平成3年竣工施設のため、施設の老朽化及び耐用年数経過設備が少なからず見られる。平成5年度より(財)下田市振興公社に管理委託しており、平成18年度より指定管理者として管理運営を行っている。このように長年にわたり培ってきたノウハウを生かし、日常管理の中で老朽化の進む施設や設備の延命を施している。大規模な修繕を行わず現状の維持管理を行うためには同社のノウハウ抜きには実現できないと考えられる。</p> <p>平成19年度までの実績を見ると、当該施設における(財)下田市振興公社の管理運営は指定管理者としての役割を十分に果たしていると考えられる。</p>
--------	---	---